

## Q 同じように伝えているのに、外国の人にうまく伝わらないのはなぜですか？

**A** 英語を共通言語としていても、文化の違いによって伝わり方が異なります。



日本人にとって当たり前の「相槌」も国が変われば捉え方が変わる。

日常会話では、言葉や発音の仕方だけでなく、笑顔や相槌など非言語からも気持ちが伝わります。例えば、日本人が話を聞くと「うんうん」と頷くことで「しっかり聞いているよ」という意思表示になりますが、それは世界共通ではありません。私がオーストラリアに留学したとき、指導教官との面談で先生がまったく頷いてくれなかったので、私の英語が伝わっていないと思ってもう一度最初から説明しようとしたところ、先生から「わかっているよ。続けて」と言われました。日本人の私は、人が話すときは相槌を打つのが当たり前だと思っていましたが、他の国ではそうではないと気づき、社会言語学の研究に興味を持つようになりました。このように同じ英語を使っても言語背景が異なれば伝わり方が異なるのはよくあることです。

言葉の研究を通じて、「ちがいを」心地いいに変えられる人に。

私の研究ではこうした異文化間のギャップをどうやって埋めるのかを明らかにするために、最近では日本語会話も研究しています。例えば、コロナ禍におけるマスク着用の啓発ポスターを見ると、公共団体のポスターでは「マスクを着用しよう!」と積極的に着用を促す表現になっていますが、駅や飲食店などのポスターでは「マスク着用にご協力ください」とへりくだった表現が目立ちます。この違いは発信者と受信者の人間関係や社会性の違いによるものだと考えられます。このように世界には様々な言語や文化、関係性があり、使っている言語が変わってもその違いが滲み出てきます。社会言語学の研究を通じて「ちがいは」まちがいはないと気づき、お互いの努力で「ちがいを」心地いいに変えていくことがこの研究の面白さだと思います。



### 池 沙弥 先生

Ike Saya

大学卒業後、就職したものの「海外で暮らしたい」という気持ちが抑えきれずオーストラリアの大学に留学。友人の勧めもあって学び続けているうちに、自分でも思いもよらず博士課程を修了していました。

### ♡ お気に入りアイテム

#### 2匹の猫 (ネコ語の違い)



2匹目の猫を飼い始め、初代猫と鳴き方が全然違うことにびっくり!ネコ語にも方言や種族語が存在するのはと、異文化間コミュニケーションならぬ異猫間コミュニケーションをひそかな研究対象としています。